



東茂住郵便局で囲碁を楽しむ皆さん

民間と行政の連携で あんきに暮らせるまちをめざします

急速に高齢化が進む飛騨市では、誰もが安心安全に暮らせるまちをめざして、さまざまな施策を行っています。特に、交通の面で不自由な山間地域では、買い物や雪下ろしなど暮らしに直結することの他、住民同士の交流や健康づくり、いざという時の見守りなど、高齢者の生活を守るための支援は喫緊の課題です。

市では、民間事業者による移動販売や宅配などの買い物支援、貨客混載による物流支援、買い物支援と交流、健康づくりなどを組み合わせたサロン事業、雪下ろし作業の委託事業など、この数年、民間と連携した取り組みが増えていきます。

その1つとして、2021年3月26日、日本郵便株式会社と包括連携協定を結びました。これは、都市や過疎地にかかわらず、全国各地で多くの店舗を運営している郵便局が、地域の高齢者の生活支援を担う仕組みです。神岡町の東茂住郵便局では、日用品や食品などを店頭販売したり、カタログ販売などのモデル事業、市が発行する「いきいき券」の交付や健康増進器具の設置を行っています。

今回は、東茂住郵便局取材して、同局での取り組みと利用者の声を聞いてみました。



東茂住郵便局での取り組み

東茂住郵便局では、市や協業先である株式会社スギ薬局と連携して、高齢者など生活に困り事がある地域住民への支援を柱とし、主に3つの先進的な取り組みを行っています。

■買い物弱者を支援する物品販売

株式会社スギ薬局と連携し、カップ麺やペットボトル飲料、お菓子などの食料品、ティッシュペーパーや洗剤などの日用品を仕入れて店頭で販売しています。また、同社のカタログ販売「おもてなし便」を活用。掲載された約500点の中から商品を選んで郵便局からファクスで注文し、郵便局で決済支払いや受け取りができます。



■人の交流を生み出すサロン

店舗内の一角にあった「予備室」を改装し、地域の人々が気軽に立ち寄れるコミュニティスペースを設けました。健康器具を設置して気軽に血圧測定ができるようにしたり、湯沸かしポットやコーヒーなどを置いて休憩ができるようになっています。近隣の皆さんを対象にした健康講座を開催したり、地域の囲碁サークルの皆さんの活動拠点として利用されるなど、サロンの役割を果たしています。



■行政窓口サービスの補完

市役所や神岡振興事務所へなかなか行けない人のために、市から端末の貸与を受けて住民票の写しなどを交付できるようにしたり、市が発行する「いきいき券」を郵便局の窓口で交付の代行をしています。また、期間限定でマイナンバーカード申請の出張窓口も開設したり、DVDでの健康体操などが視聴、実施できるようになっており、行政サービスの補完の役割も果たしています。



市と民間事業者は強みを活かして事業を展開しています

移動販売・宅配支援

買い物が困難な方への支援として生鮮三品や生活必需品を移動販売車両で地域、各戸の近くまで訪問販売するサービスを促進し、安定してサービスを受けられるよう支援しています。



貨客混載

市営バス「市おでかけバスひだまる」山之村線を活用して、乗客と荷物の輸送・運行を一緒に行う貨客混載の実証実験がスタートしました。今後、他地域での導入も検討していきます。



岡田博英局長と利用者にかがいました



■取り組みを始め たきっかけは？

郵便局は全国各地、過疎が進む地域にも店舗があり、サービスを提供していますが、地域に住む人がいなくなってしまう

ば店舗を存続できません。国の地方創生の試みに郵便局としてどう取り組んでいくのか。一番過疎が進む地域で何か企画できないかと話し合い、手をあげました。

市と協議する中で、高齢者の買い物について着目しました。この地区周辺には食品や日用品を購入できるスーパーやコンビニなどが無いので、買い物には十数キロ先まで行かなければなりません。

そこでこの郵便局で食品や日用品を販売できないかとなり、郵便局の買い物支援という全国でも珍しい取り組みをさまざまな人のご尽力のおかげで実現できました。

■手ごたえはどうか？

地域の方がふらっと買い物をされたり休んでいかれたりと、気軽に立ち寄っていただけるようになりました。

近くに東大や東北大の研究施設があり、研究者や学生、職員の方がお菓子やカップ麺を買うなど重宝いただいています。ノーベル賞を受賞した梶田隆章教授も寄ってくださるなど、この郵便局ならではの特徴があります。

健康講座を開いたり、地域の囲碁サークルの皆さんが集ったりと、ずいぶんにぎやかになりました。地域の皆さんから「ありがたい」「ぜひ続けてほしい」と声をかけていただき、嬉しいです。

■今後、期待することや思いは？

用が何もなくても寄ってコーヒーを飲んだりお菓子を食べたり、この郵便局をどんどん利用してほしいです。

郵便局のもつ役割を生かしていただいていますし、そのおかげで全国的にも注目いただけています。

人口減少が続く中で、貯金や保険だけでなく、地域の人に使っていただくことで地域に根ざし、それが郵便局の存続につながっていかばと思います。そのためにいろいろ話しながらやっていきたいですし、声かけもしていきます。

利用者のお話

囲碁愛好家で作る「茂住サークル」の皆さんは毎週木曜日、午後1時から午後4時ごろまで東茂住郵便局で対局をしています。岡田局長から声をかけられ、昨年6月から活動しています。

囲碁同好会の石山隆さんによると、「会の存続と愛好家の意欲維持のために、囲碁は緑星会方式で行っています。他の地域からも来てくれると嬉しいですね。場所を提供してくださり、ありがたいです」と話していました。他のメンバーの皆さんも「勝ち負けだけ



けでなく、集まって話したりコミュニケーションできるのが楽しみ。こんなことがないと家から出てくる機会がないよね」と笑顔で話していました。

課題解決や現状に合った仕組みづくりを協働しています

地域複合サロン

買い物が困難な地域を支援するため、市と生活協同組合コープぎふなどが連携してサロンを開催。

買い物支援と地域住民の憩いの場、語らいの場を提供し、元気のある地域づくりのお手伝いをしています。



雪下ろし支援

雪下ろしを誰に頼んだらよいか分からない方のために、雪下ろしができる事業者の一覧を市で作成して配布したり、自力で雪下ろしができない高齢者などをサポートしています。

